

# 断片化した データによる 目に見えな いコスト

今や企業は、複数のクラウドプラットフォームやレガシーシステム、部門ごとのサイロにまたがって、これまでになく多くのデータを管理しています。データ量が増えれば、自動的により優れたインサイトが得られ、賢明な意思決定につながると思いたいところですが、実態はより複雑です。

管理されていないデータや、十分に統合されていないデータは、資産としての価値を急速に失い、むしろ負債となり得ます。この問題の根幹は、往々にしてデータのストレージインフラストラクチャが断片化していることにあります。ストレージ環境がサイロ化していたり、旧態依然としていたり、過度に複雑化されている場合、気づかぬうちにリソースが浪費され、業務のスピードが低下し、成長の足かせとなります。システムを混沌とさせ、チームを混乱させ、コンプライアンスを複雑なものにします。

ストレージを活用して合理化するための統合ストレージ戦略がないと、データを活用してビジネスを強化するどころか、負担となってしまいます。

## データの断片化が生じる理由

断片化したデータの管理は、単なる技術的な問題ではなく、ビジネス全体における課題です。さまざまなチームが、時期をずらして異なるストレージシステムを導入した可能性、明確な統合戦略なしに、クラウド環境とオンプレミス環境を併用している可能性があります。原因は何だろうと、結果としてシステムの分断、業務の重複、可視性の欠如がもたらされる点は共通しています。

レガシーストレージアーキテクチャーでは、専門知識が必要になることが多く、効率的な拡張も困難です。これは、オーバープロビジョニング、コストの増加、イノベーションの停滞につながります。また、ストレージの断片化により、ワークロードの管理やデータの保護が困難になり、データの真価を引き出しづらくなります。特に、AIや分析がビジネス戦略の中心となる今、こうした課題の深刻さが増しています。

## 見落としている可能性のあるコスト

データの断片化は一見、技術的な不都合に過ぎないように思えるかもしれませんが、その波及効果はIT部門をはるかに超えて広がっています。表面下で、じわじわと業務効率を低下させ、コスト増をもたらす、組織を重大なリスクにさらします。断片化への対処は、単なるシステムのアップグレードではなく、戦略的に必然なのです。

### 1. 業務効率の低下

チームが何時間もかけてデータを探し回り、レポートをまとめ、手作業でファイルを転送することは、時間の損失です。ストレージの断片化はワークフローに支障をきたし、意思決定を遅らせ、生産性を低下させます。

### 2. ITコストの増大

複数のストレージプラットフォームを管理することは、ライセンスとサポート契約の数が増えて、複雑さが増すことを意味します。重複する機能にコストを費やし、どこからも完全な価値を引き出せていないかもしれません。

### 3. アジリティの低下

今日の急速に変化する市場において、アジリティは最も重要です。しかし、システムの断片化により、方向転換、拡張、イノベーションがより困難になります。データがサイロ化されたままでは、迅速に対応できません。

### 4. コンプライアンスやセキュリティのリスク

断片的なストレージ環境は、制御が困難です。つまり、侵害、監査の不備、規制違反によるペナルティのリスクが高まります。このリスクを本当に受け入れられますか。



## 簡素化のケース

ハイブリッド環境でワークロードがシームレスに稼働する統合ストレージプラットフォームを想像してみてください。ここでは、チームがスムーズに連携し、データが安全かつ効率的に流れます。

最新のストレージソリューションは、まさにこうした断片化の解消を目指して設計されています。その主要な特長は以下のとおりです。

- 分散型スケールアウトアーキテクチャーにより、オーバープロビジョニングを低減し、コストを最大40%削減<sup>1</sup>
- AI主導のクラウド運用エクスペリエンスにより、管理を簡素化し、運用時間を最大98%短縮<sup>2</sup>
- データ可用性を100%保証し、高度なランサムウェア検知により安心安全を確保<sup>3</sup>
- ハイブリッドクラウド全体にわたる統合データ基盤により、AI、分析とイノベーションをサポート

## 今すぐ簡素化を開始

データ環境を制御し、断片化を軽減する具体的なステップは、次のとおりです。

### データ環境の監査

システム、部門、プラットフォーム全体で、データの場所を明確にすることから開始します。冗長性、ギャップ、ボトルネックを特定します。この監査により、断片化が生じている場所だけでなく、運用、コスト、意思決定にどのように影響を及ぼすのかを把握できます。これらの影響を定量化すると、変化のビジネスケースが明確になります。

## プラットフォームの統合

多くの場合、相互に連携しないツールの乱用が断片化を招いています。ネイティブ統合を提供するか、ハイブリッド環境をサポートするプラットフォームに統合する機会を探してください。すべてを完全に置き換えるのではなく、可能な範囲で合理化し、システム間の摩擦を減らすことが重要です。プラットフォームの数を減らすことは、サイロ化の解消と運用負担の軽減に直結します。

## スケーラブルなソリューションへの投資

ビジネスの成長に伴って、データも増大していきます。増大するデータの処理、新しいデータタイプのサポート、新しいテクノロジーとの統合を問わず、ニーズに応じて拡張できるソリューションを選択します。スケーラブルなプラットフォームは、今後の移行の必要性を低減し、変化する市場でアジリティを維持できるようにします。

## ITとビジネスの目標をすり合わせる

データ戦略は、単独で行うべきものではありません。カスタマーエクスペリエンスの向上、イノベーションの加速、運用の効率化など、より広範なビジネス目標をサポートする必要があります。データイニシアチブのすり合わせを図り、優先させるようにするために、ITリーダーとビジネスリーダーのコラボレーションを育み、測定可能な価値を実現します。

複雑さに甘んじる必要はありません。ストレージインフラストラクチャの簡素化により、アジリティを高め、コストを削減し、ビジネスを成長軌道に乗せることができます。

自分に問いかけてみてください。使用しているストレージはデータの活用を後押ししているのか、それとも阻んでいるのか。

## 詳細はこちら

[HPE.com/data](https://hpe.com/data)

<sup>1,2,3</sup> [HPE Storage substantiation](#)

[HPE.comにアクセス](#)

### 今すぐチャット

© Copyright 2025 Hewlett Packard Enterprise Development LP. 本書の内容は、将来予告なく変更されることがあります。ヒューレット・パカード エンタープライズ製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては責任を負いかねますのでご了承ください。

a00150722JPN

HEWLETT PACKARD ENTERPRISE

[hpe.com](https://hpe.com)

